

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	基里小学校
-----	-------

1 前年度 評価結果の概要	・地域人材を活用し、様々な体験活動や交流活動を工夫することができた。次年度は、キャリア教育に繋がる体験活動や交流活動となるよう更に工夫していきたい。 ・児童の主体的な学びを実現するために校内研究を軸にして教職員が切磋琢磨しながら授業改善に取り組んできた。次年度は、更に児童の学力向上をめざす。 ・PTAや学校運営協議会との連携を図るとともに、見直した教育計画や校時表を基にして積極的に業務改善を行った。昨年度より時間外勤務時間の削減ができた。次年度は、更に働きやすい魅力ある学校となるよう業務改善を図りたい。 ・「5・8交流」「よろしく先輩」「文化発表会参観」など児童生徒の交流活動ができた。授業の相互参観や研究会参加など、小中学校の教職員が共に学ぶ場を設けることもできた。次年度は、研究発表会開催とあわせ、小中一貫教育の一層の充実を図りたい。
------------------	---

2 学校教育目標	「誇りと生きる力を身に付け、心身ともに豊かな基里っ子」の育成 ～ みんなが気持ちよく過ごすことのできる学校にしよう ～
----------	--

3 本年度の重点目標	①児童の主体的な学びの実現と学力の向上 ②心の教育の充実による豊かな心の育成 ③小中一貫教育とコミュニティ・スクールの充実
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○児童が問い立て、解決することを通して、主体的・対話的に学ぶことを目指した授業力改善	○児童が問いを立て、解決する場を設定するような授業改善に取り組んでいる教員90％以上。 ○自分で問いを立て、問いの解決を目指して学習に取り組むことができる児童70％以上。	・校内研究を中心として、問いを軸とした授業づくりの在り方を研究し、児童が主体的に学び、考える楽しさを味わうことができる授業の充実を図る。 ・学習の振り返りにおいて、全校共通の項目(「きざとっこ」)を行う。	B	・7月に実施した授業づくりに関するアンケート調査で肯定的に回答した教員が85.7％。後期は、授業研究や実践例の共有を通して、児童自ら問いをつくることができるようにさらなる授業改善を図る。 ・7月に実施した学習に関するアンケート調査で肯定的に回答した児童が96.5％。問いのつくり方や学習の振り返りに関する指導の充実を通して、児童が問いをつくり、解決に向けて学習することのよさや達成感を味わうことができるようにさらなる授業改善を図る。	B	・12月に実施した授業づくりに関するアンケート調査で肯定的に回答した教員が100％。後期は、主に研究発表会に向けた指導案検討や授業づくりの要点を協議し、共有することを通して、児童自ら問いをつくり、その解決を目指した授業改善を図ることができた。 ・12月に実施した学習に関するアンケート調査で肯定的に回答した児童が70.6％で目標値を達成した。特に、低学年においても、問いを中心とした学習の経験を重ねたことで、自ら問いをつくり、解決していく力が高まったと考える。	A	・授業を参観すると、一人一人の児童が自分の課題解決に向き合ったり、児童どうしが話し合ったりすることができていた。主体的な学びができていてと評価できる。児童の頑張りが伝わった。 ・1年生の児童が、自分の問いを立てたり、タブレット端末を使ったりしていることに感心した。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした教師90％以上 ●アンケートにおいて、「困ったことや悩みがあったときに話せる人がいる」と答えた児童80％以上	・「特別の教科 道徳」の研修を深め、教科書や教材の活用方法を工夫し、日頃の授業研究に努める。 ・何でも話せる人間関係づくりに努め、各学級でなかよし宣言を考えたり人権標語を作成したりすることで、人権について考える機会をもち、思いやりの心につなげる。	B	・道徳の授業研究会を実施し、研修を深め、教科書や教材の活用方法を工夫しながら日頃の授業研究に努めていく。 ・7月に実施した「なかよし平和集会」において、各学級でなかよし宣言を考え、人権について考える機会をもち、思いやりの心につなげられるようにした。	B	・人権教材などを使っている道徳授業研修を実施して何でも話せる人間関係づくりに努め、道徳に関するアンケート調査で肯定的な回答をした教師が95.5％、「困ったことや悩みがあったときに話せる人がいる」と答えた児童81.9％に達し、目標を達成できた。 ・各学級で「ここにカード」などの人権標語を作成することで、人権についての考えを深め、思いやりの心につなげた。	A	・道徳の授業や「ここにカード」「人権標語」の作成を通して思いやりの心を育ててもらっていると感じる。学んだことが日常生活に生かされるように期待している。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●学校評価アンケートで「学校が楽しい」と答える児童90％以上。 ●いじめの防止、事業への対応について、組織的な対応ができていると答える教師85％以上。	・生活アンケートの回答を確認し、いじめにつながる事案について対応する。 ・いじめの認知・覚知した場合、いじめ対策委員会を開き、早急に対応する。	B	・7月に実施した学校評価アンケートで「学校が楽しい」と答えた児童は85％。後期も生活アンケートや児童の様子を見守ることで、いじめにつながる事案の早期発見に努める。 ・いじめ対策委員会を定期的に開き、いじめ事案にあがった児童について、毎月のアンケートや担任の日頃の見取りから経過観察を行うことで、組織的な取り組みを行うことができた。	A	・87％の児童が「学校が楽しい」と回答している。90％には届かなかったが、前期は85％だったため、「学校が楽しい」と回答する児童が増えている。 ・100％の教員がいじめ防止等について組織的対応ができていると回答している。気になった児童については、いじめ対策委員会を開き、早期発見・早期対応、そして、長期的に対応ができたと考える。	A	・「学校が楽しい」と回答する児童が増えているのはよいことである。児童の様子に気を配っていたりしながら、継続した取組をお願いしたい。 ・いじめについて組織的対応ができているのがよい。いじめが起こらないような環境づくりを学校・家庭・地域で作ることが大切である。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80％以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80％以上	・児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとしたり、一人一人のよさが認められたりするような教育活動を仕組む。 ・年間や学期ごとのめあてや振り返りのためにキャリアパスポートを活用する。家庭に持ち帰り一言コメントを保護者に書いてもらうなど、保護者が知る機会を増やす。 ・目標をもって中学校に進学するための交流や体験活動を可能な限り行っていく。	A	・「掃除がんばったねカード」を用いて、教員が全校の児童の頑張りを発見して伝えられるようにすることで、児童はよいところを認めてもらえる嬉しさを感じた。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は、84.3％であった。将来の夢や目標だけではなく、近い目標を立てさせる機会を多く作り、より多くの児童が将来に向けて前向きな気持ちをもてるようにしたい。	A	・77.3％の教員が、キャリアパスポートを活用し、児童の目標や頑張りを、よさなどを保護者にも知らせる機会を作っていると回答している。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は、83％であった。6・8交流では、中学生に中学校での生活や不安な点について直接聞くことができたことで、多くの児童が近い将来に対して見通しと前向きな気持ちをもつことができた。	A	・5年生児童が稲刈りのあとに行った「夢をおらべ」の企画において、自分の夢をはっきりと述べていたことに感心した。 ・近い将来について、中学生と話をする機会があるのは、よいことである。6・8交流を参観したが、とてもよい雰囲気であった。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●休み時間に屋外で運動する日が、1週間で3日以上の子供65％以上	・体育委員会を中心に、外遊びを推奨するイベントを企画・実施してみんなで運動することの楽しさを味わうことができる場を設定する。 ・外遊びを推奨する掲示物を校内に掲示して、児童の意欲喚起を図る。	B	・体育委員会を中心に6月に全校児童で「水おに」を企画・実施し、みんなで運動することの楽しさを味わった。 ・休み時間に屋外で運動する日が1週間で3日以上の子供は58.3％であった。特に1年生が外遊びをしない傾向にあったので体育委員会を中心に呼びかけ、児童のからだづくりを推進したい。	A	・1月には2週間の縄跳び週間を設け、12月には体育委員会を中心に全校児童で「ドッジボールラリー」を企画・実施し、みんなで運動することの楽しさを改めて味わった。 ・休み時間に屋外で運動する日が1週間で3日以上の子供は73.5％であった。目標は達成したが今後も、児童の体力向上のために外遊びの推奨を呼びかける。	A	・様々な企画で体を動かす機会を増やそうとしている取組がよい。異学年交流の場となっているところもすばらしい。
	○望ましい生活習慣の形成	○1日の睡眠時間が1～3年生は9時間以上、4～6年生は8時間以上が80％以上	・保健便りや校内の掲示物を通じて、睡眠の大切さを児童に呼びかける。	B	・1日の睡眠時間が1～3年生で9時間以上が50.8％、4～6年生で8時間以上が58.3％であった。 ・「熱中症予防号」「夏バテ防止号」の保健便りや、睡眠の大切さを呼びかけた。今後は学年集会や児童集会の保健委員の発表等で睡眠について話していく。	A	・1日の睡眠時間が1～3年生で9時間以上、4～6年生で8時間以上であると答えた児童が95.6％であった。 ・「新年号」「心の健康号」の保健便りや睡眠と規則正しい生活習慣の大切さを呼びかけた。学活や児童集会での保健委員会の発表で睡眠についての話をした。	A	・成長期の児童にとって、十分な睡眠をとることは重要である。しかし、ゲームやSNS利用で、生活リズムが崩れている児童がいるようだ。家庭の協力も得ながら睡眠の大切さについて、これからも考えさせていってほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議や行事の精選、ICT活用による校務の効率化を図る。 ・通常の放課時刻を昨年度より15分早め、退勤時刻を意識した働き方を推進する。	B	・4月～8月までの時間外在校等時間月平均は25.6時間であった。昨年度同時期より、約4時間削減できた。	A	・授業時数の確実な把握と調整、「すぐる」運用、ICT活用についての情報交換等により公務の効率化が図られた。 ・施設時刻を意識した取り組み等により、時間外在校等時間は、昨年度同時期までより月平均約4.3時間削減できた。	A	・徐々に時間外在校等時間が減ってきていることはよいことである。 ・先生方でなくてもできる仕事があれば、協力したい。
●特別支援教育の充実	○学習環境の整備	○児童が落ちついて学校生活を送るための個別の場の各学級の設置率90％以上	・各学級に、一斉指導の場と別に個別のスペースを用意し、「一人学び」「クールダウン」を行うことができるようにする。	A	・個別の場の各学級の設置率90％以上達成することができた。「一人学び」「クールダウン」の場として活用できた。	A	・各学級に設置した個別学習の場を、各児童が「一人学び」「クールダウン」の場として活用できていた。一人学びの時は、個別学習の場へ自分から行く習慣も身に付いた。	A	・個別に学習できる環境があるのはよいことである。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
sai				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80％以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上発信した学級率80％以上	・年1回以上、授業参観等で教科「日本語」の授業を公開する。 ・学年通信や学級通信で、教科「日本語」に関わる情報を学期に1回以上載せる。	B	・授業参観で教科「日本語」の授業を公開した学級は、83％だった。 ・教科「日本語」に関わる情報を、1学期中に1回以上保護者に知らせた学級は58％だった。引き続き、定期的に呼びかけていく。	B	・授業参観で教科「日本語」の授業を公開した学級は、100％だった。 ・12月時点で、教科「日本語」に関わる情報を2回以上保護者に知らせた学級は50％だった。一方、日頃から各学級が教科「日本語」の授業実践を積み重ねていることもあり、教科「日本語」の学習内容に対する保護者の認知度は90.1％と高かった。	A	・小中一貫教育の研究発表会での授業を参観し、学校運営協議会委員は、100％知っている。鳥栖市ならではの、素晴らしい授業だった。また、どの学級も授業参観で保護者へ公開できたところも評価できる。
○地域と共にある学校の推進	○コミュニティ・スクールの活用	○アンケートにおいて「コミュニティ・スクールとして推進していることを知っている」と回答した保護者80％以上、「学校生活を地域の方に支えてもらっている」と回答した児童80％以上。	・学校行事等において、積極的に学校支援の依頼を行う。 ・学校運営協議会活用による学校行事等について、積極的に知らせていく。	B	・アンケート調査では、肯定的な回答をした保護者は76.6％、児童は86.5％であった。基里っ子集会等で来校された際、児童や保護者に学校運営協議会委員や学校支援の内容を紹介する。	A	・学校便りや集会活動等で委員や取組の紹介を行った。アンケート調査では、肯定的な回答をした保護者は81.1％、児童は87.1％となり数値目標を達成した。	A	・学校行事への地域の参加や地域の人材を活用した授業を活発に行うことができている。PTAの協力もあり、今後も継続して児童に様々な体験を積ませてほしい。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・教科「日本語」を中心として、校内研究を充実させ、児童が問いを立て、解決する場を設定するような授業改善を工夫することができた。次年度は、研究を継続すると共に学びのスタイルを他教科へも広げたい。 ・「教育相談週間」「なかよしアンケート」で児童の困り感を捉え、「なかよし宣言」「人権標語」など思いやりの心を育む取組を行うことで心の教育の充実を図ることができた。今後もみんなが気持ちよく過ごすことのできる学校作りに努める。 ・研究発表会を開催し、小中一貫教育の一層の充実を図ることができた。授業の相互参観や研究会参加など、小中学校の教職員が共に学ぶ場を設けると共に、「5・7交流」「6・8交流」「よろしく先輩」「文化発表会参観」など、児童生徒の交流活動も継続したい。
--------------------	--